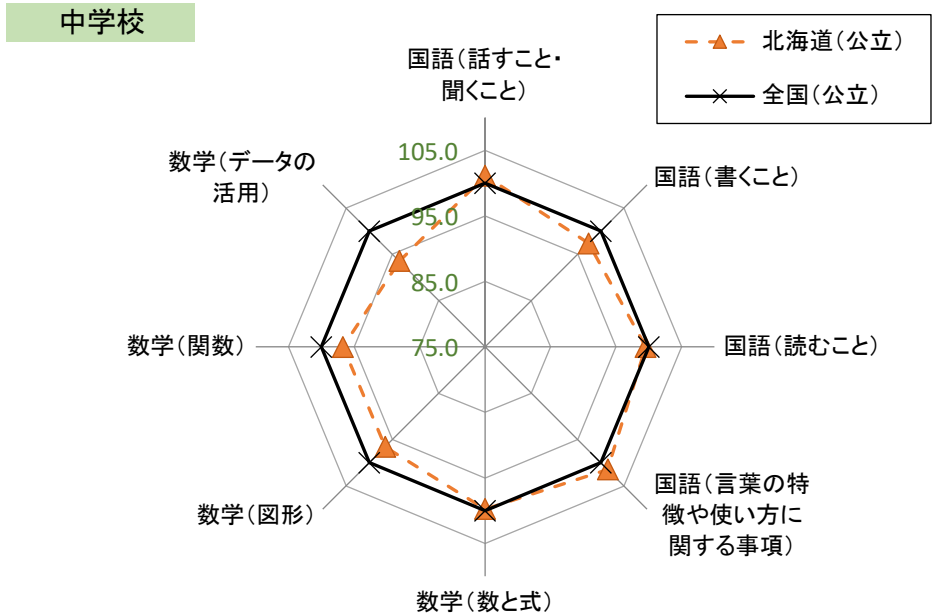
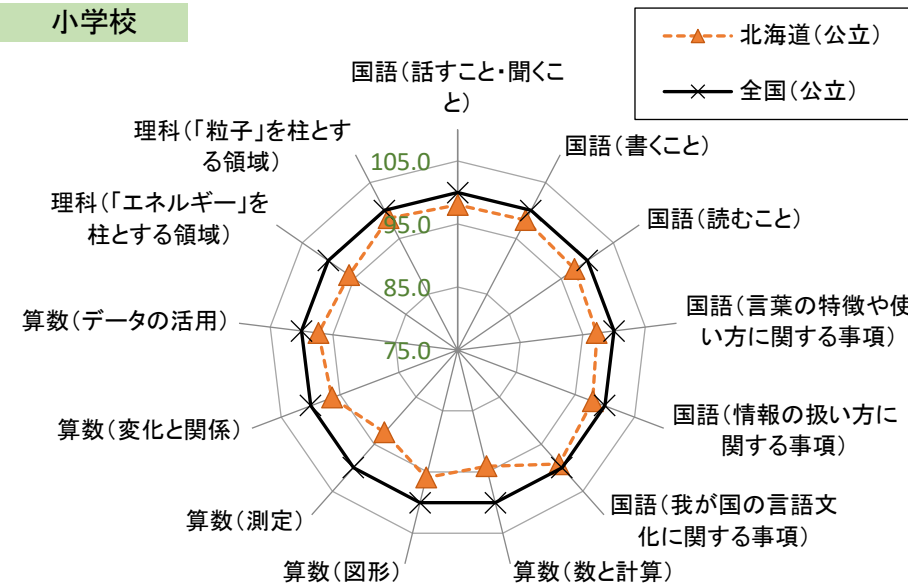


○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



小学校数:1校、児童数:2人 中学校数:1校、生徒数:2人

【平均正答率・平均IRTスコア】				※中学校理科は平均IRTスコア		
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
音威子府村	－	－	－	－	－	－
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

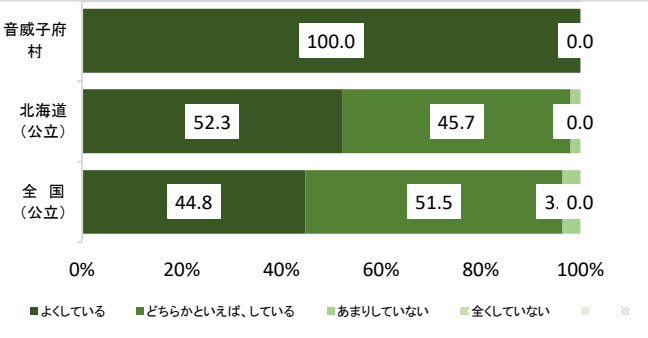
音威子府村においては、児童・生徒数が少なく個人が特定される恐れがあるため、教科に関する調査の状況について公表を控えさせていただきます。

○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

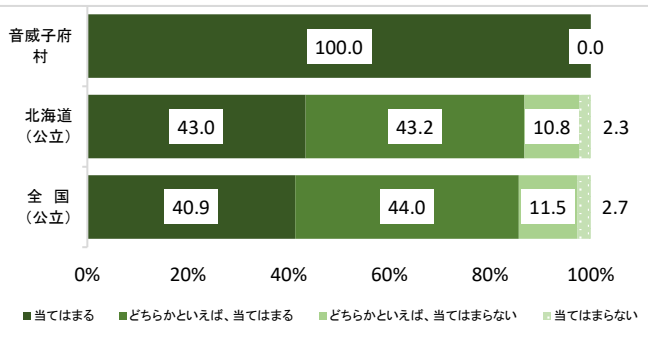
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



小学校

<児童質問>

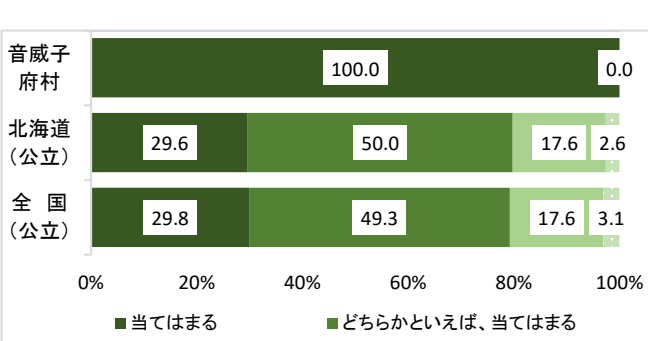
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



小学校

<児童質問>

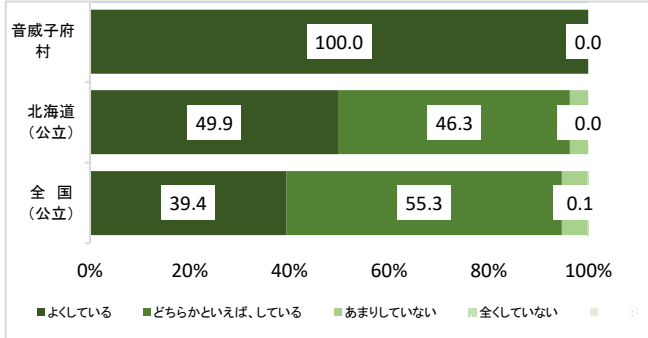
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか



中学校

<学校質問>

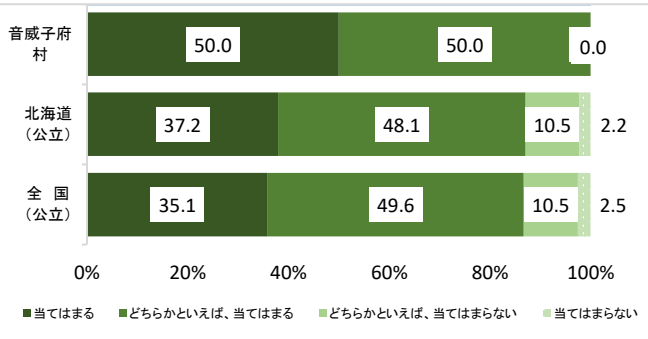
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



中学校

<生徒質問>

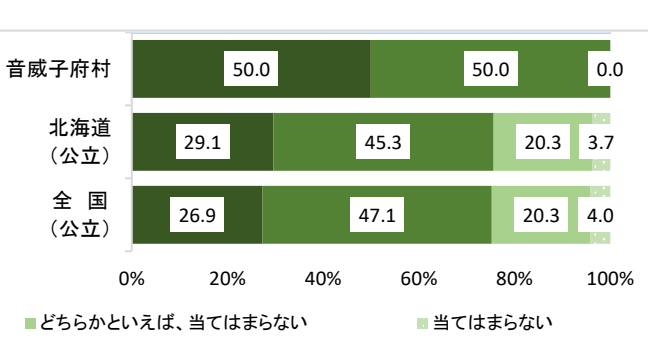
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

<生徒質問>

国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校・中学校ともに、「言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体で取り組む」めていることが、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童・生徒の割合が、小中ともに全国及び全道を上回った要因だと考えられる。

- ・ また、充実した言語活動の取り組みにより、小学校においては「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている」と回答した児童の割合が、中学校では「国語の授業で、文章を読み、その文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・ 「個別最適な学び」と「協同的な学び」の推進やICT端末の効果的な活用を通じた、自らのペースで学びを深めることができる環境の整備
- ・ 地域資源を活用した体験的な活動とICTをベストミックスさせた教育活動の充実